



あなたも今日から地球市民  
～ 公正な地球市民社会の創造を目指して～

特定非営利活動法人  
**WE21 ジャパン**

Women's Empowerment 21 Japan

# 2006 年度活動報告書

特定非営利活動法人 WE21 ジャパン  
〒221-0052  
神奈川県横浜市神奈川区栄町 1-9 ケンコウビル 1F  
TEL: 045-440-0421  
FAX: 045-440-0440  
E-mail: [info@we21japan.org](mailto:info@we21japan.org)  
URL: <http://www.we21japan.org>

2007 年 5 月発行

# 2006年度 活動報告

## 1. 自律した地球市民の育成

今年度もまた、世界中の紛争地域は、残念ながら平和の道を辿ることはありませんでした。特に WE21 ジャパン(以下 WE21)の支援先でもあるパレスチナやアフガニスタン、イラクなどの情勢は悪化する一方で、現地 NGO スタッフからの報告内容に憂慮するばかりでした。しかし情報が閉ざされがちな時こそ、WE21 や WE21 地域 NPO (以下地域 NPO) 主催による支援先の報告会は、世界情勢を捉えながら現地住民などの立場に思いをはせる機会となりました。さらに、地域 NPO の企画力も高まり、報告会のほかに写真展やイベントなどの開催は、参加する市民が現実に向かい合い、自分たちでできること、分かち合えることを考え、行動する機会となりました。このような活動を積み重ねながら、日常的に地域の人たちに働きかけたことは、自律した市民の育成に繋がることになりました。

しかし、国内では 5 年半続いた小泉政権が戦後生まれの安倍政権に交代したものの、国会では民主的な議論をすることなく、生きていく上で重要な平和的生存権や基本的人権を阻む法律が決定されています。このような社会に対して、多くの自律した市民による地域づくりが必要です。今年度 57 万人以上の市民の参加を得た WE21 の活動と、自律した市民への働きかけをすすめる地域拠点「WE ショップ」の役割は、ますます重要となります。

## 2. 世代を超えた地域コミュニティの創出

今年も、行政との連携により WE ショップボランティアとして中高生の参加がありました。また、地域 NPO では、ボランティアミーティングの開催から、ボランティアを中心にしたショップ見学会やリメイク活動の開始など、企画運営への参加も少しずつ広がってきました。

5 年目のインターン受け入れでは、インターンの学生が中心となって、地域の学生ボランティア、初の現役大学生マネージャーとの若者交流会を開催しました。また、IT やイラスト等の広報関係、修繕、物の運搬等で WE21 の活動に参加する男性ボランティアも増え、今後は男女ともに経験豊かなシニアボランティアの参加の広がりが予測されます。このように、WE ショップの活動を通して、世代を超えた人の参加は増えているものの、将来 WE ショップが、地域で活動する他 NPO とネットワークをしながら地域拠点として暮らしやすい地域づくりをコーディネートする役割が期待されます。

## 3. 資源循環型市民社会の実現

地球温暖化による異常気象が相次ぎ、日本においても竜巻の発生や局地的な集中豪雨などが起こりました。今年度初めて寄付品の重量をはかり、WE ショップ全体でどの位の衣類や雑貨が資源化されているのかを調査しました。その結果、年間約 500 トンの資源が焼却処分されずにリユース・リサイクルされ、税金はもとより、収集処理に必要なエネルギーの節約、焼却による大気汚染の軽減につながっていることがわかりました。

また、フィリピンの鉱山開発問題からの学びや開発教育部会による共育の充実によって、私たちの便利で一見豊かな暮らしが、実は世界中の天然資源に依存していること、また輸入先である

多くの途上国では、大規模な環境破壊、現場で働く労働者の健康被害が引き起こされ、貧困の原因となっている実態を学びました。

生産国の環境や人権を守るためには、私たちが輸入資源に依存しない生活への転換が求められます。そのひとつとして、衣類や雑貨等身の回りの資源を、市民自らが自分たちの責任で循環し有効活用する WE ショップの運動があります。2006 年度年間 57 万人を超える人たちが WE21 の運動に参加した事実は、資源循環型社会への確実な一歩となりました。

#### 4. WE21 のビジョンに基づいた内実の向上

今年度の特筆すべき活動として、10 月にはフィリピンの NGO・PO 関係者を招き、WE21 の支援先でおきている鉱山開発問題についての国際シンポジウムを開催しました。鉱山問題調査チームには、調査活動にかかわる専門家の参加協力を得、実行委員会を中心に、足尾銅山視察も加え、共に日本の公害を学びました。また、同じ 10 月には韓国の美しい店からの招聘を受け、WE21 が設立のモデルとしたイギリスの Oxfam、アメリカの救世軍とともに、チャリティーショップを運営する 4 カ国による NGO の国際会議へ参加しました。他団体と比較して、改めて WE21 の活動について理解を深める機会にもなりました。また、訪韓時に訪問した市民メディアは、既存のマスメディアに左右されがちな現在の日本社会への対案として、今後の広報戦略を考えるヒントとなりました。

今年は、新聞、雑誌、テレビなどで WE21 全体の活動を紹介される機会が多くあり、組織内外であらためて自分たちの活動を再認識することができました。また、共通な広報グッズが開発され、ネットワーク組織としての認識が深まった年でもありました。地域 NPO 主催の WE 講座の開催、そして WE21 企画の各種講座、アジアの人々とのネットワークを通じて、多様な共有の機会を増やし、WE21 の活動の目的を確認しあいながら活動を進めました。運動の「語り部」を増やし、ひとまわり外への共感を広げることにはまだ課題が残されていますが、今後の 5 カ年中期計画においては、ビジョンの実現に向けて地域 NPO の自律性を高め、協働していくことが、新たな目標となりました。

## 《事業及び活動報告》

### 1. リユース・リサイクル推進事業

8 年間の活動から私たちが循環型社会を実践し、他国の資源を搾取しないことこそ、平和で公正な社会の実現が可能であることを学びました。今年度は協働委員会が年間を通して初めてリユース・リサイクル事業の推進に取り組んだ年でもあります。その成果としてリユース・リサイクルに関わる実務的な開発と WE21 に寄付される総量についての検証を行いました。その中から見えてきたのは、WE21 のショップでのリサイクル活動が、環境事業として大きな社会貢献をしているということでした。

また、WE21 の運動が信頼しうる組織になり、運動に対する共感が広がった成果として全国から寄付品が集まるようになりました。活動に参加した市民は 57 万人（寄付者 + ボランティア + 顧客数）になります。

## 1) 資源循環型社会を広げるための「WE ショップ」事業の拡大

### (1) 新規ショップ事業

循環型社会を作ることは WE21 のリユース・リサイクル運動の目的であり、そのために地域でのショップ展開は欠かせません。今年度は期首 55 店舗、期末 60 店舗を目標としてきましたが新規のショップ展開は 1 店舗に留まりました。要因としては、ショップ開設基準にあう物件との出会いが少なくなっていることがあげられます。

戦略をもって川崎のショップ空白エリアである中原区で、地域の市民に WE ショップ開設の呼びかけを行いました。開設実現には繋がりませんでした。継続した調査と核になる人探しが課題となりました。

現在抱えている課題解決にむけてより有効な運動を展開するため、4 つの地域 NPO がショップの移転をしました。移転の際の積極的なボランティア参加や、移転前より様々な条件が良くなったことで、活動が元気になりました。

\* 新規開店したショップ：えびな中央店

\* 移転したショップ：WE ショップほどがや天王町店・横須賀中央店・旭店  
いそご洋光台店

### (2) 既存ショップ事業

既存の WE ショップ総合売り上げは対前年比 104% で、昨年同様前年比を超えました。実績の伸びは各地域 NPO が年間計画を立てることで品物を計画的に搬入、トレードできたこと、地域 NPO のノウハウが蓄積されたこと、マネージャー間の共有によるスキルが上がったことなどによります。

市民からの寄付品は、昨年 84,000 件に対し、今年度は 88,000 件となりました。各地域 NPO による寄付品の提供をよびかけるチラシの配布等が実施され、日常の地道な活動の努力が実を結んでの成果といえます。

ボランティアの参加は延べ 38,000 人となりました。着実に数の上では増えているものの、ボランティア参加者の拡大は、今年度も課題となりました。

## 2) WE ショップを拠点として資源の有効活用をするための活動

### (1) 資源を有効活用に繋げました。

53 のショップが参加し、WE ショップに寄付される衣類や雑貨の総重量の調査を実施しました。市民からの寄付が初めて数字で示されたことによって、WE ショップの活動が、税金の節税や環境付加の軽減に貢献していることがわかり、寄付やボランティア参加を中心とした地域 NPO 活動の価値への理解に繋がりました。またこの結果を経営会議、マネージャー会議で報告、共有し、エントロピー学会で発表しました。次年度は、この調査の学問的な検証に繋げていく予定です。

マネージャーの提案により、ショップで販売する衣類の回転を速め、販売できなかった衣類（以下ファイバー）の有効活用と他店舗へ寄付する（以下トレード）仕分け作業の軽減を図るため、ブルーファイバー（他店へのトレード品を青い袋に入れて差別化）を導入しました。その結果、寄付品の少ない時期において、ショップ間の品物循環システムとして効果的でした。

全地域 NPO を対象に、ショップで販売出来ない、又トレードに適さない中古衣類の再利

用先についてのアンケートを実施しました。又、行き先として中区寿町地区の中古衣類の需要について聞き取りを行いました。現在は需要に対して提供品がだぶついている状況であることが分かりました。今後も再利用先を開拓していく予定です。

陶器のリサイクルの情報を収集して可能性を探りました。次年度の活動につなげていきます。

(2) 地域 NPO が力をつけるための課題に取り組みました。

ボランティアの参加メニューとスキルアップの体系化、ボランティア受入れマニュアルを作成し、より多様な市民が WE21 でのボランティアに参加し、社会貢献に繋がる活動をすすめました。

循環型社会の入り口としての WE ショップの運動を元気に語ることを目的とした WE 講座を開催しました。

1月25日(木)「WE ショップはアジアに繋がる」

～ どうして私たちは地域でリサイクル運動をするの?～

講師：丸山茂樹氏                      参加者：42名

WE21 や WE ショップの活動をアピールするために、メッセージを入れ新しく開発した統一値札(合計16万枚)や統一のポスターを作成しました。手軽に WE ショップでアピールができ、WE21 への活動の共感を高める役割をしました。

3) WE21 の運動を広く知らせ、共感を得るための活動

(1) 各ショップの掲示用として、WE21 のビジョン・ミッション・キャッチコピーのポスターを作成して各ショップに配布し、自分たちの活動の目指す目標を明らかにしました。

(2) 企業や個人に寄付品を呼びかけることはしませんでした。マスメディアの効果で多くの寄付品が全国から集まりました。

(3) 三つ折りパンフレットやセールチラシ、ニュースの見本、イラスト集を作成して地域 NPO に提供し、広報がしやすい条件を整えました。また、移転ショップやレイアウト希望のあるショップに出向き、必要なアドバイス、有効な広報グッズ作成方法を伝え、共有に寄与しました。出前によるショップ広報やポップ講習会は広報チームのメンバーが減少したため、思うように活動できませんでした。

4) WE21 地域 NPO、WE ショップマネージャーワーカーズ(以下 WEing)との連携

(1) 地域 NPO と WE21 との契約に基づいて、事業のサポートや課題解決に協力し、地域 NPO の潤滑な組織運営に繋がりました。

(2) WEing と連携して新人マネージャーの3ヶ月、6ヶ月、1年目の研修を行いました。

また、ショップ企画や WEing の共有企画などを通して互いの情報を共有し、マネージャーの共有に努めましたが、今後も継続した連携が必要です。

(3) 「電気用品安全法(PSE法)」の施行とその背景について調査し、地域 NPO に報告をしました。また、危機管理の課題に対して、危機管理マニュアルの見直しやボランティア保険や店舗保険についても経営会議などで確認しました。

## 5) 大和リサイクル・デリバリーセンター（以下大和センター）の活用

マスメディアに取り上げられるたびに、全国からの寄付品が増えてきました。寄付者の心を代弁するために、有効活用に努め、定期的に開催した「WE まつり」の収益は「アジア交流市民の家」事業への支援金とすることにしました。また、小型家具のリサイクル事業なども加わり、大和センターの物流拠点としての役割を果たしました。

- (1) WE まつりを 3 回実施し 1,197,378 円の売り上げがありました。（内アジア交流市民の家に 40 万円）
- (2) 小型家具「くるり蔵」との共同事業として、常設販売スペースの提供や、ショップでの広報を行いました。
- (3) 朝日新聞・日経新聞その他マスメディアやインターネットにより全国から今年度は 715 件の寄付品があり、寄付者には毎回 WE21 の活動を知らせる情報を発信しました。その結果、寄付金に繋げることができました。さらに、寄付品は WE まつりでの販売や各ショップに分配し、有効に活用しました。
- (4) 毎月 W.Co キャリーとのミーティングを開催し、保管品の有効活用やファイバーの再利用に努めました。その結果、大和センター内の資源の循環は、潤滑に配送及び管理ができました。（ファイバー総量 108.89 t 前年 103.4 トン 対比 105.3%）
- (5) ストック品や他ショップへのトレード品の管理やショップ間の情報収集、発信を行い、中古衣類の季節ごとの活用を推進しました。

## 6) リメイク文化の推進

### (1) リメイク文化の推進

地域にリメイク文化を広めるため、リメイクチームの中で技術やアイデアを出し合い、新たな作品を開発し「リメイクチーム出前講座メニュー」を発行、地域に配布しました。地域での出前講座の開催が広がり、リメイクボックスの活用が定着し、地域 NPO にリメイク活動が広がりました。

\* 出前講座 11 回

\* リメイクボックス貸し出し 14 地域 NPO

\* 地域 NPO 主催リメイク講座 28 地域 NPO \* リメイクだより発行 2 回

地域 NPO では、リメイク品の販売を別会計とし、非収益事業会計に繰り入れることが可能なシステムにして、リメイク活動の成果を見えやすい形にしました。

WE まつりをリメイクチームの活動紹介の場と位置付け、ウール着物や各ショップからのファイバーを利用したリメイク品の紹介や販売、エコぞうりの指導等を通じて、資源の有効利用をアピールしました。また、横浜国際フェスタでもリメイク品によるファッションショーを行い、WE21 の活動を紹介し、リメイクの価値を伝えました。

## 2. 民際支援事業

地域 NPO が力を高めると共に、互いに連携し WE21 全体で大きな力が発揮できるよう、共育委員会が支援・企画室と連携して全体をコーディネートし、民際支援事業、共育活動、政策提言活動を推進しました。基本方針に沿い、以下の項目について活動を進めました。

#### \* 民際支援事業の推進

WE21 独自支援事業として「アジア交流市民の家」推進事業を進めました。また NGO 助成では一般公募し、前期追加募集で 3 件のプロジェクト、後期募集で 3 件のプロジェクトを助成しました。インドネシア・ジャワ島地震に際して復興支援事業を助成しましたが、現地 NGO のプロジェクト断念に伴い、WE21 の支援も返還されました。3 年目にあたる「アジア・友だち・みらい」貯金ではアフガニスタン教育支援を継続しました。

#### \* 共育活動の充実

マネージャー会議や経営会議で共育活動の時間を設け、学び、話し合うことによって自分の考えを深める場を作りました。共育活動を通じて WE21 の活動目的を常に意識すると共に、WE21、地域 NPO、WEing の 3 者の関係性が明確になりました。特に WE ショップの価値や、元気に地域活動を行うための要素などについて、共通認識を持つようになりました。

#### \* WE21 の運動展開

国際シンポジウムの成果、部会・チーム活動、連携先の情勢などを統合し、私たちの生活に結びつけて、環境・人権・開発を考え、行動する運動を市民に呼びかけました。また、ジェンダー・ワークショップを企画し、ジェンダー平等への活動を始めました。

#### \* 人材育成

WE21 の運動を推進するリーダー育成のために、ファシリテーター養成講座を開催しました。WE21 や地域 NPO のリーダーなどが参加し、参加者の意見を引き出しまとめるワークショップの手法を学び、その後の活動にいかしました。参加型で運動をすすめる WE21 にとって、今後もこうしたリーダー研修が必要と思われる。

### 1) 民際支援事業をすすめ、エンパワメントを図るための活動の推進

(1) 「アジア交流市民の家」事業を推進しました。 執行金額：80 万円、調査派遣費：786,186 円  
現地アドバイザーを配置して、農民の生活改善のための自立活動のサポートをしました。

ベンゲット・ネットワークの「持続可能な農業と住民組織強化を通して行う農村開発」2 年目の活動を現地でモニタリングし（2006 年 6 月）最終年のプロジェクトを共に作成し助成しました。3 年目の活動のモニタリングを行いました（2007 年 1 月）これを踏まえ第 2 フェーズの組み立てを検討する必要があります。

モニタリングの報告を理事会、経営会議、マネージャー会議で行いましたが、さらに現地の活動を頻繁に伝え、情報と意義の共有化を地域 NPO と図る必要があります。「アジア交流市民の家」のパンフレットを作成しましたが、今後、周知を図り活用することが求められます。現行プロジェクトの最終年にあたり、今後他地域への展開が視野に入ってきました。アジア交流市民の家部会と国別チーム座長の合同ミーティングを開催し、今後の展開について討議しました。

(2) 経験交流事業については、持続可能な農業（食の安全保障）の視点から、今年度は「種子の保存」をテーマに南々交流を企画し、スタディツアーとジョイントして企画しましたが、訪問予定地のバングラデシュが情勢不安定なため中止しました。

(3) 国内外 NGO のプロジェクトへ助成しました。 執行金額：2,260,333 円

昨年に引き続き、理事会の諮問機関として審査会を開催し、WE21 の支援基準に基づき国内外 NGO のプロジェクトへの助成を検討し、理事会で決定しました。

支援先の活動報告から現地の課題を学び、NGO との連携を図ると共に、地域 NPO と活動内容や課題の共有化を図りました。( 報告会開催記録は P11 参照 )

《2006 年度 助成プロジェクト》

団体名 / 現地協力団体	事業名	国名	金額
シャブラニール=市民による海外協力の会 / ポリチティ ( 現地 NGO )	コルカタ市における「家政婦として働く女性たち」	インド	50 万円
日本国際ボランティアセンター / タンラック郡人民委員会 ( 現地組織 )	ベトナム北西山岳地域住民参加型農村開発事業	ベトナム	37 万円
幼い難民を考える会 / ケマラ ( 現地 NGO ) トロピエンスパイ公立幼稚園教員	都市のこどもの支援調査	カンボジア	13 万円
アロヨン・ヤ・パクデ・デ・ベグゲット ( 現地ネットワーク NGO )	ベンゲット州における鉱山問題提言活動のための NGO と PO のネットワーク強化事業	フィリピン	243,800 ペソ ( 約 64 万円 )
地球の友と歩む会 / パハ・エティ財団 ( 現地 NGO ) 内務省村落エンパワメント局 ( 管轄官庁 )	出稼ぎ農村女性に対する小規模事業経営能力・組織化支援事業	インドネシア	520,333 円
テック・ジャパン / TECH	「裁縫センター」	スリランカ	10 万円

(4) 緊急支援へ取り組みましたが、現地 NGO がプロジェクト執行を断念したために、助成金は返還されました。 執行金額：0 円

- ・ ジャワ島地震による被災住民の活動再開のために、草の根援助運動の「インドネシア・ジャワ島中部地震被災者復興支援」に 30 万円を助成しました。
- ・ 復興支援事業内容が住民の意向と合わず、現地 NGO がプロジェクト執行を断念したために、助成金は返還されました。
- ・ 刻々と事態が変化し情報が錯綜する中での緊急・復興支援活動の難しさを確認しました。事業が予定通り行われなかったことについて、報告を通じて今後の緊急・復興支援への学びとしていきます。

(5) 「アジア・友だち・みらい貯金」から寄付文化を高める取り組みをしました。

寄付総額：699,169 円 、地域 NPO の直接送金 280,782 円

公正な社会を目指す開発教材の一つとして、WE21 貯金箱を市民に広めるために、ポスターやチラシを作成しましたが、市民に広がる運動にはなっていません。地域 NPO への働きかけ方など、共有委員会として具体的な取り組み方を検討する必要があります。

今後も貯金箱活動を継続するために、来年度分からの貯金箱増刷を決定しました。

日本国際ボランティアセンターの「アフガニスタン教育支援」を継続して支援し、教育の質

の向上を目指すための教員研修プロジェクトに寄付し、現地報告会の開催を通じてアフガニスタンの現状を学びました。

- (6) 支援先や興味のある国について歴史や社会情勢を学びながら、現地の NGO や市民との連携の可能性を探る国別チームの活動が、活発に行われました。

フィリピン、タイ、インド、カンボジアの4つの国別チームが、WE21の民際支援事業と連携しながら、積極的に活動を進めました。座長ミーティングを適宜開催し、各チームの活動を共有すると共に、アジア交流市民の家部会と合同ミーティングを行い、今後の各地域での活動展望について話し合いました。

フィリピンチームは、フィリピンの概要や、地域 NPO が支援し連携する NGO や PO のプロジェクト内容について、WE21のメンバーに理解を広めるために出前講座を行いました。国際シンポジウムではフィリピン概要のプレゼンテーションを行い、地域 NPO での WE 講座、ホームステイなどをサポートしました。参加メンバーが少数で固定化しつつあり、参加の拡大が課題です。

タイチームは、タイの NGO メンバー来日に際して学習と交流を進めると共に、日本の有機農業家との交流も行い、自分たちを取り巻く農業の現状や環境について学びました。また、これまでの調査をまとめ、「タイの基礎情報」を冊子化しました。メンバー全員の参加によるミーティングは難しく、メーリングリストを通じて情報の共有化を図りましたが、ミーティング参加率を高めることが課題です。

インドチームはジェンダー問題および環境教育について学習を進めました。ジェンダーについては、市民にジェンダーについての認識を広め、意識改革して女性のエンパワ - メントにつながるための活動が課題です。「インド通信」を3回発行し、好評を得ました。「インド通信」を通じてインドへの理解を広めましたが、活用方法が今後の課題です。環境教育の教材作りに着手しましたが、次年度に継続します。

カンボジアチームは、カンボジアについて共に学び考える場として立ち上げました。まずは情報交換から始め、カンボジア NGO スタッフ来日の時には交流しました。

- (7) 評価会を設置し、支援事業や助成プロジェクトから WE21 の共有などへの評価を実施しました。理事会からの諮問機関として、支援に関する事業全般の活動について点検評価する評価会を設置し、今年度助成先の全てのプロジェクトについて資料を点検し、討議を通じて評価しました。

評価基準を作成し、評価結果を理事会に提出して報告しました。評価活動からの学びは WE21 にとって大きな力になると期待されます。

- 2) 課題を解決するための政策提言活動をすすめました。

- (1) ODA の改革

ODA の課題を共有するために ODA ニュースを作成しましたが、地域 NPO でどのように活用されているかを点検する必要があります。

チーム活動は、今年度はベンゲット鉾山問題調査活動に参加する中で進められました。

- (2) 東アジアでの平和づくり

「平和政策提言チーム」を立ち上げ、平和な社会づくりをめざす活動に取り組みました。学習を進め、WE21 の平和政策の骨子作成に取り組みました。

### (3) NPO 税制の改革

NPO 税制問題チームを立ち上げ、他法人の税制優遇制度や外国の制度の学習をすすめ、社会貢献事業型 NPO に対する制度提案をまとめました。

### (4) 多文化共生のまちづくり

チーム活動を行うことはできませんでした。活動の必要性は求められていますが、担うメンバーの確保が課題です。しかし、多文化共生をめざすあーすフェスタに参加し、他団体と交流し、情報交換を図りました。

### (5) 鉱山問題調査チーム

年間計画にはありませんでしたが、支援先のフィリピン・ベンゲット州の鉱山問題に対応するため、ベンゲット鉱山問題調査チームを立ち上げ、調査活動を進めました。アドバイザーを迎え、短期間で集中的に調査を展開しました。

国際シンポジウムで調査結果を報告し、「支援先の問題」を「私たちの問題」として捉え、私たちの生活を見直す提案を行うと共に、ローカル NGO 同士のグローバルな連携の重要性を確認しました。報告書を作成し、市民社会づくりのための社会運動、今後の WE21 の環境・人権活動に繋げました。

## 3) 共育をすすめて WE21 の内実を高めました。

公正な社会を築くためには、自律した市民の育成が不可欠です。共育委員会はこの活動を推進するために、WE21 の活動を担うメンバーのエンパワメントをめざすと共に、WE ショップが市民社会づくりの拠点となるよう、共育活動を推進しました。今年度は共育委員会のもとに、部門別ミーティング(支援部門=国別ミーティング、政策提言部門、共育部門)を設定しましたが、今後は必要に応じ、課題ごとに関係チームが結集する形態が有効であると考えます。

### (1) 講座・報告会等を開催しました。

WE 講座、NGO 現地報告会、共育講座、支援研修会などをバランスよく企画するために、講座企画調整部会(共育委員会、協働委員会、広報委員会のメンバーが参加するコラボ会議)を設置し、内容・日程の両面から各種講座の連絡調整機能を果たしました。今年度初めて設置された部会でしたが、組織全体に学びの場をバランスよく機能させることが出来ました。今後は記録として保管し、各委員会や地域 NPO との共有を図ります。

マネージャー会議、経営会議に共育活動の場を企画し WE21 の内実を高めるための活動を進めました。

必要なテーマに応じて、WE 講座を企画しました。( WE 講座開催記録は P11 参照 )

- ・ ODA 実施現場での課題を学ぶために JICA 訪問講座を開催しました。ODA についての理解は進みましたが、講座という形で現場の具体的な課題を知ることは難しいこと、JICA と NGO との連携の難しさが課題として残りました。
- ・ 国際シンポジウム(P14 参照)開催に先立ち、フィリピンの鉱山問題を考える講座を開催しました。資源開発の現状と問題点、持続可能な社会をつくるための運動課題が明確になりました。
- ・ NPO 税制問題の可能性をさぐるために講座を開催しました。認定 NPO 法人制度の問題点が明らかになり、今後の公益法人改革の流れのなかで、NPO 法人の意義を再認識させていく必要性があります。

- ・ 今年度は全体での共有講座を開催せず、参加型組織を運営するリーダー研修として、ファシリテーター養成講座を開催しました。(P11 に記載)
- ・ 市民の協力により生み出された支援金を責任もって運営するために、支援研修を開催しました。組織運営に関わるメンバーにとって必須の研修であり、毎年開催が望まれます。
- ・ 「WE ショップはアジアとつながる」については、リユース・リサイクル推進事業の項に掲載。(P4 を参照)
- ・ ジェンダーの視点をもって WE21 の活動をすすめるために、WE21 の活動にひきつけたジェンダー・ワークショップを企画しましたが、世界的なデータを基にした概念的な理解が中心のワークショップとなりました。WE21 の内なるジェンダー意識を知り、ジェンダー平等の活動につなげていくことが課題です。

(2) 開発教育に取り組みました。

「カップめんからアジアが見える」のワークショップを地域で展開し、年間で 20 回出前講座を実施しました。

「水」をテーマとした教材作成に取り組みましたが、メンバー間の調整がすすまず、年度内に完成できませんでした。2007 年前半に完成予定です。

開発教育に取り組む他団体の研修や WE21 企画のファシリテーター養成講座に参加し、ファシリテーターとしての力を高めました。

(3) 種子の保存をテーマとして、経験交流事業の南々交流とジョイントしたバングラデシュツアーを企画しましたが、バングラデシュが政情不安定なため、安全管理の上から中止しました。

(4) 政策提言型 NGO として専門性を高めるために、若手のスタッフの海外 NGO への派遣研修を検討しましたが、受け入れ先の NGO と派遣予定者の調整ができずに実施に至りませんでした。

(5) 地域 NPO 及び WEing への活動を支援しました。

地域 NPO 及び WEing メンバーの、支援や共有活動への理解を深め、連携して民際支援活動を推進するために、以下のサポートを行いました。

支援ニュース、支援先ポスターなどを発行し、マネージャーやボランティアの支援内容への理解を進めると同時に、市民への情報発信に努めました。

支援研修を開催すると共に、支援ハンドブックを活用した共有活動を行いました。

地域 NPO からの情報を受け、支援ニュースや経営会議、マネージャー会議を通じて WE21 全体での共有化を図りました。

地域 NPO で取り組むフェアトレードやスタディツアーについてアドバイスをを行いました。また、地域 NPO の支援活動の相談に個別に対応しました。

地域 NPO の要請に応じ、運営委員会等での支援に関する出前講座を行いました。

WEing の依頼を受け、支援に関するマネージャー新人研修(3ヶ月研修、6ヶ月研修)を行いました。

参考資料

WE 講座

日程	タイトル	講師	参加者
2006.6.21	JICA の役割～NGO との連携～	竹内智子氏 (JICA 横浜・連携促進チーム)	35 人
2006.9.7	フィリピンの鉱山問題を考える	栗田英幸氏(愛媛大学助教授)	24 人
2006.11.22	NPO 法の問題点と制度提案	松原明氏 (シーズ = 市民活動を支える 制度をつくる会事務局長)	18 人
2006.11.30 ～12.1	ファシリテーター養成講座	木下理仁氏 (かながわ開発教育センター 事務局長)	19 人
2006.12.20	支援研修	下澤嶽氏 (JANIC 事務局長)	42 人
2007.1.25	WE ショップはアジアとつながる	丸山茂樹氏 (参加型システム 研究所研究員)	42 人
2007.3.19	ジェンダー・ワークショップ	高橋由紀氏 (国立女性教育会 館研究国際室研究員)	28 人

報告会

団体 及び プロジェクト	報告会開催日
日本国際ボランティアセンター (JVC) / アフガニスタン教育支援	4 月 横浜北マネージャー会議、 11 月 全体報告会
ホーリー・チャイルド・プログラム (HCP) / 心的外傷 (トラウマ) を持つパレスチナの子どもたちの治療支援事業	4 月 理事会、5 月 経営会議、 9 月 県央・横浜北マネージャー会議、 12 月事務局及び評価会とのミーティング
アロヨン・ヤ・パクデ・デ・ベグット / フィリピン・ベンゲット州における鉱山問題提言活動のための NGO と PO のネットワーク強化活動	10 月 国際シンポジウム
日本国際ボランティアセンター (JVC) / ベトナム北西山岳地域住民参加型農村開発事業	10 月 中間報告
シャプラニール=市民による海外協力の会 / コルカタ市における「家政婦として働く女性たち」	1 月 中間報告
草の根援助運動 / インドネシア・ジャワ島中部地震被災者復興支援	11 月 理事会中間報告

### 3. 広報宣伝活動

WE21 への共感と参加を広げるために、理事・地域 NPO メンバー及び WE21 会員の参加で広報委員会を組織し、広報・情報室と連携し、広報活動を進めました。

#### 1) WE21 の活動を社会化する広報・宣伝の充実

WE21 のダイナミックな活動やしぐみを広く知らせるため広報グッズの充実を図りました。

##### (1) WE21 オリジナルカレンダーを作成し、広報グッズとして活用しました。

昨年度までの JVC と提携したカレンダーの取り扱いに代わり、広報委員会内に「カレンダーチーム」を組織し、支援先やスタディツアーで蓄積した写真を生かした WE21 オリジナルのカレンダーを、ボランティアの協力のもと制作しました。

当初は、WE ショップで広く販売し、収益性の高いカレンダー販売としましたが、地域 NPO からの発行部数を検討した結果、主に地域会員やボランティアメンバーを対象に組織内の共育を進めるための広報グッズとすることにしました。

取り扱った地域 NPO へのアンケート結果では、7 割の地域から共育グッズとして有効だったという回答でした。今後は企画の段階で、カレンダー作成の目的を明確にすることが重要です。

発行部数 = 500 部 定価：800 円

##### (2) リーフレットを充実しました。

WE21 の活動内容を紹介する多様なリーフレットの作成をすすめました。

業者印刷によるもの

- ・ 英語版リーフレット作成（2 色）発行部数：4,000 部
- ・ 日本語リーフレット（三つ折パンフ）の新規企画を進めました。

簡易印刷によるもの

- ・ 以下の多言語リーフレットを作成しました。  
（スペイン語・ポルトガル語・韓国語・中国語・タイ語）
- ・ 部会と協力し、アジア交流市民の家事業のリーフレットを作成しました。

ホームページの充実

ホームページをみてボランティアや寄付者として参加する人々が増えてきました。このことから魅力あるホームページづくりを検討し、デザイン・掲載内容の充実を図りました。さらに、毎週地域 NPO 情報の掲載・更新をすすめましたが、情報提供が頻繁な地域 NPO とそうでない地域 NPO とがあり、今後は情報収集方法が課題です。

- ・ 「What ' s New」に掲載された記事から情報を転載し、最新情報の掲載に努めました。
- ・ 英語による活動紹介ページの作成に取りかかりました。
- ・ 連携する団体のホームページとの相互リンクの拡大が、課題として残っています。

##### (3) 翻訳チームの活動を支援・調整しました。

英訳を中心とした翻訳チームメンバーが支援先からの申請書の翻訳、シンポジウムでの同時通訳や資料の翻訳、多言語によるパンフレット開発などに大きな力を発揮しました。この活動は、WE21 の活動を支える重要なチームとなっています。

##### (4) 寄付文化を広げる活動に取り組みました。

「1%宣言」のパンフレットは好評で、WE21 を語るグッズの一つとして定着してきまし

た。しかし、寄付箱の設置は WE21 に関係の近い団体に留まり、連携のとれていない学校や商店街などへの設置は難しいものがあります。しかし、大和センターへの物品の寄付者への働きかけにより、「1%宣言」への賛同も広がりました。年々参加の手ごたえは感じられますが、急に効果が出にくい活動ですので、今後も点検・評価しながら取り組む必要があります。 WE21 への寄付： 104,862 円

今年度、5 年期限の貸付者 252 人へ貸付金 10 万円の返済から寄付への働きかけをした結果、18 人から 605,000 円の寄付となりました。これは、WE21 の活動が周知されてきたものと評価しています。

アジア・友だち・みらい貯金へは、59 人（2003 年 9 月～累計 468 人）の寄付者があり、目的を達成しました。

(5) 広報紙「WE21 ジャパンニュース」を発行しました。

A4 サイズ 8 ページ 隔月発行（6 回）

06 年度発行： 35 ～ 40 総数 37500 部

35 号：6000 部 36 号：6100 部 37 号：6300 部 38 号：6600 部

39 号：6300 部 40 号：6200 部

WE21 及び WE21 地域 NPO の活動をわかりやすく伝え、共感を広げるために、広報委員会で企画案を検討し、広い視点に基づく構成、地域 NPO 参加の紙面づくりを心がけました。配布先は、WE21 会員、地域 NPO を通し WE ショップで配布するなど、地域 NPO の希望に応じて配布部数の調整を行いました。また、相互理解を深るために、連携団体にも送付しました。

(6) 最新の動きを伝える「What's New」を発行しました（隔週）

WE21 及び地域の最新情報をキャッチ・発信し、共有活動の推進と情報提供に努めました。生き生きとした地域活動の様子が最新で届く情報源として、地域での活用方法の検討が必要です。（配布数はメール及び FAX にて約 300 件）

(7) パネル、ポスター等を作成しました。

ビジョン・ミッションやマネージャー募集を掲載したポスターを作成し、各地域 NPO に配布しました。また WE ショップ用のぼり旗（100 旗）、大和倉庫用「WE まつり」旗（10 旗）を作成しました。「WE ショップ」のぼり旗は地域の WE ショップで活用されています。

2) WE21 内部の運動の共有・共感の促進

WE21 の成り立ちやダイナミックな活動やしくみを内部で共有し、共感するために広報グッズの活用をすすめました。

(1) 冊子『WE21 ジャパンのあゆみ』の販売を通して、WE21 の活動への理解と周知を高めました。

（発行数 1,000 冊 販売・寄付数：641 冊 07 年 3 月末在庫数：359 冊）

理事会、経営会議、マネージャー会議で、共有として WE21 への理解を深めるために教材として活用しました。また、地域 NPO での読み合わせ会やボランティア・協力者への贈呈など、様々な事例が報告されています。それによって、WE21 の原点を知り、活動をより広く理解することが出来ました。また、外部の方からの応援メッセージを読み、あらためてその評価の高さを知り、元気が出る源になりました。

(2) WE21 活動紹介ビデオの活用をすすめました。

活動紹介ビデオ（10分版・60分版）を放映するショップが増え、映像を使った広報グッズが有効に活用されています。現在、英語のナレーション入りのビデオ編集を進めています。  
連続60分版ビデオ：38本販売

3) 既存のマスメディアによらない市民メディアとしての情報を受発信しました。

(1) さまざまな広報媒体を活用しました。

ネットワークしている NGO（JANIC・横浜 NGO 連絡会・ODA 改革ネット・シーズ）の広報誌への情報発信を行いました。

インターネット新聞「JanJan」からの依頼を受け、「What's New」の記事を提供し発信しました。

4) マスメディアによる取材を受け、WE21 の情報を発信する機会となりました。

以下のマスコミ取材を受け、情報発信に努めました。

新聞社：日経新聞・朝日新聞・読売新聞

テレビ局：テレビ神奈川（1月20日放映） テレビ大阪（3月2日放映）

特に、新聞取材による記事の反響は大きいものでしたが、こちらの伝えたい趣旨が正確に伝わらないもどかしさもありました。韓国視察を通じて、日本社会においても、既存のマスメディアによらない市民メディアによる情報受発信の必要性を痛感しています。

## 4. 国際シンポジウムの開催

これまでの支援活動において、WE21 が独自事業として推進するアジア交流市民の家事業の現地パートナーであるフィリピン・ベンゲット州の人たちが深刻な鉱山開発問題にぶつかっていることが報告されてきました。運動のリーダーたちへの政治的暗殺があとを絶たないという現状の中で、今、支援先で起きていることを共有するために、ベンゲット鉱山問題調査チームを立ち上げ、調査活動を進めました。

そして、この問題に直面している現地の NGO・PO のリーダーを招聘し、国際シンポジウムを開催しました。企画・準備に関しては実行委員会を組織し、フィリピン現地報告と WE21 の調査チーム報告を中心に、支援先の問題を私たちの問題として提案しました。報告書の作成を行うと共に、市民社会づくりのための社会運動、今後の WE21 の環境・人権活動に繋げました。

\* 日時 2006年10月15日（日）

\* 場所 JICA 横浜 会議室

\* テーマ：公正な地球市民社会の創造をめざして

～フィリピン・ベンゲット州鉱山問題から、地球市民として人権・環境を考える～

\* 基調報告： ネスター・カオイリ氏

\* パネラー： ローランド・セグネケン氏（PO 代表）

賢川恭子氏（鉱山問題調査チーム座長）

\* コーディネーター： 郡司真弓氏（WE21 理事長）

\* 参加者： 91人

## 5. 地域通貨「WE 通貨」システムの模索

連携を図る予定だった生活クラブ生協が今年度の方針に反映されずに、取組みを見送ったことで、実施できませんでした。再検討が必要です。

## 6. 組織活動

今年度から、WEing の設立及び地域 NPO との契約の見直しから発展した新規契約をもとに、地域 NPO や WEing、ゾーンマネージャーとの連携をはかり、WE21 の目的を達成するための組織活動を展開しました。

### 1) 理事会

理事会を定期開催し、総会で決定された活動方針の実現を図りました。

- (1) 会員拡大については、理事会で地域の担当を決めて拡大行動をすすめてきましたが、残念ながら結果に結びつきませんでした。WE21 の活動へ共感を高めることが必要です。また、他 NGO へ団体会員への参加、及びインターンの学生への働きかけにより、団体会員・学生会員が増えました。

正会員 <個人>	167 名	<団体>	11 団体
賛助会員	13 名	学生会員	5 名

- (2) 今後の運動の方向性を築くために、5 ヵ年中期計画策定委員会を設置し、5 年後の WE21 のあり方について議論を深めながら策定を進めました。
- (3) 地域 NPO の自主性と WE21 の役割を取り入れた契約の見直しを図る契約検討チームを設置しました。按分委託方式の対案として、定額委託方式のモデル導入などを含めた基本契約の見直しにつながりました。
- (4) マネージメント力を高めるために、共育機関として以下の組織運営を行いました。

#### 経営会議

月 1 回開催し、WE21 の事業及び基本計画を遂行することを目的に、WE21 と地域 NPO 及び WE21 地域 NPO 間の相互理解と連携をはかりました。

今年は、講座企画調整部会が全体の調整機能を果たし、毎回共育のテーマを決めたことにより、各種会議において共育機能が進みました。出席回数が少ない地域へのはたらきかけにより、後半は出席率が高まりました。常に欠席のところは、代理出席を促す等、今後の対応が必要です。

#### マネージャー会議

共育、広報、協働各委員会と連携し、WE21 全体の運動の目的や支援について学びあう場としての機能を高めました。ワークショップやブレインストーミングなど、各自の意見を出し合う参加型の手法を活用し、お互いの「気づき」を共有しました。

また、普段の活動エリアをこえた参加方法を取り入れたことで、マネージャー同志が緊張感をもって討議する場面がうまれました。

報告書のフォーマットを更に工夫し、お互いの評価点検から学びあい、自分たちの次の活動につながる議論に近づくよう働きかけた結果、中堅のマネージャーの力量アップという成果が出ています。

#### (5) WEing 及びゾーンマネージャーとの連携

WEing とは、共通のテーマについては共に学ぶ機会を共有し、連携をはかるよう努めました。特に WE21 が後半に企画した支援研修においては、双方の組織の連携・調整が図られ共に学ぶことができました。

ゾーンマネージャーとは「ゾーンマネージャー業務委託に関する覚書」を交わし、マネージャーの人材育成、共育事業等の推進、地域課題の解決に取り組んできました。

この間ショップ展開が進むにつれ、ショップ間や地域 NPO を調整する機能としてゾーンマネージャーは存在していました。しかし、事業に対する地域 NPO メンバーやマネージャーのマネジメント力がついてきたことは、ゾーンマネージャーの役割を見直す機会となりました。今後はゾーンマネージャー制度を発展的に解消し、WEing・地域 NPO・WE21 が連携して課題解決を図っていきます。

## 7. 他団体との連携

### 1) 日本国内外の国際協力 NGO との連携

アジア交流市民の家事業の現地パートナー「ベンゲットネットワーク」を中心に、WE21 の支援先である鉱山問題に取り組む「アロヨン」の活動を通じて、鉱山開発問題をテーマに国際シンポジウムを開催しました。フィリピンに関係する国内外の他の NGO とも連携がとれるようになったのは大きな動きです。

### 2) 他の市民団体や行政、企業等との交流

神奈川 NGO 会議に参加し政策提言を行いました。横浜国際フェスタへセミナー及びブース参加し、他団体との交流を深めました。また、NPO「ほっとけない世界の貧しさキャンペーン」「ODA 改革ネットワーク」「横浜 NGO ネットワーク」に参加して、それぞれの情報などを共有しました。

### 3) インターンシップ事業への参加

今年度は、前半でインターン各自のテーマを絞りプログラムを実行しました。インターン終了後も WE21 の活動へ継続して参加するなど、学生たちとの交流が続いています。

### 4) 各協同組合との連携、食の安全や有機農業について情報の共有

カンボジア NGO の CEDAC 代表の来日の際には、WE21 が生活クラブ生協の生産者訪問のコーディネートをしました。その後 NGO 関係者と有機農業の組合組織について意見交換の機会を持ち、お互いの経験を共有することができました。

## 8. 事務局機能の強化

1) 総会方針に基づき理事会で決定された事業を責任もって進める執行体制を高めるため、毎月業務企画ミーティングを開催しました。スタッフ同志の情報の共有をはかり、事業全体の調整機能を高める場としました。

2) 参加型の組織運営を目指した形での 3 つの委員会活動が活発におこなわれました。担当スタッフとして議案の調整や提案をし、そのスムーズな運営・執行に努めました。また、地域からの個別相談においては、各部室の担当スタッフが対応し、時には全体で調整しあい解決に

つなげました。

- 3) 事務局分掌事項を見直しについては、5 ヶ年策定時に見直しを図りました。後半、広報情報室の非常勤スタッフが一人体制となりましたが、全体で補佐し合い業務を進めました。
- 4) お互いの業務の分業と協業を図る必要性が高まっています。そのためにも事務局マニュアルづくりをすすめ、ファイリングリスト作成など、業務全体状況が把握できるよう、システムを整備していきます。
- 5) 「5 ヶ年中期計画策定」に向けて、理事及び事務局研修をおこないました。ワークショップ形式で議論し、今後のWE21のあり方について共通認識を持ち、策定に反映させました。
- 6) 外部からの取材が増え、マスメディアへの対応が増えました。その都度、理事会、地域 NPO と連携しながら、広く活動を紹介する体制を組みました。(資料参照)